

3 小 学 校

児童数 54,195 人で減少

表 6 小学校の推移

(単位：校、学級、人、%)

年度	A 学校数	B 学級数	C 児童数	D		1学級当たり		本務教員1人当たり		女子教員 の占める 割合	
				対前年度 増減率	教員数 (本務者)	対前年度 増減率	児童数 C/B	対前年度 増減数	児童数 C/D		対前年度 増減数
平成22	203	2,430	59,870	△1.0	3,700	0.6	24.6	△0.1	16.2	△0.2	68.2
23	201	2,432	59,145	△1.2	3,717	0.5	24.3	△0.3	15.9	△0.3	67.5
24	199	2,384	57,959	△2.0	3,682	△0.9	24.3	0.0	15.7	△0.2	67.2
25	198	2,372	56,684	△2.2	3,685	0.1	23.9	△0.4	15.4	△0.3	66.9
26	196	2,334	55,277	△2.5	3,651	△0.9	23.7	△0.2	15.1	△0.3	66.3
27	196	2,321	54,195	△2.0	3,653	0.1	23.3	△0.4	14.8	△0.3	65.8
国立	1	12	437	△2.2	18	0.0	36.4	△0.9	24.3	△0.5	38.9
公立	195	2,309	53,758	△2.0	3,635	0.1	23.3	△0.3	14.8	△0.3	65.9

(1) 学校数

学校数は196校(本校195校、分校1校)で、前年度と同数であり、このうち休校中の学校は2校(公立2校)であった。

設置者別にみると、国立が1校、公立が195校となっている。

市町村別では、富山市67校、高岡市26校、射水市15校などとなっている。

学級数別では、8学級の学校が29校(構成比14.8%)で最も多く、次いで14学級の学校が24校(同12.2%)、7学級の学校が22校(同11.2%)などとなっている。学級規模で学校数をみると、「11学級以下(小規模又は休校)」が103校(構成比52.6%)、「12~18学級(標準)」が66校(同33.7%)、「19学級以上(大規模)」が27校(同13.8%)となっている。

(表6、統計表32、41)

(2) 学級数

学級数は2,321学級で、前年度より13学級減少している。

編制方式別にみると、単式学級が1,942学級(構成比83.7%)、複式学級が29学級(同1.2%)、特別支援学級が350学級(同15.1%)となっている。

(表6、統計表33)

(3) 児童数

児童数は54,195人(男子27,807人、女子26,388人)で、前年度より1,082人(2.0%)減少している。これはピーク時(昭和33年度、159,700人)の33.9%である。

学級編制方式別にみると、単式学級児童が52,934人、複式学級児童が296人、特別支援学級児童が965人となっている。

市町村別では、富山市21,789人、高岡市8,149人、射水市5,248人の順に多い。対前年度増減数をみると、富山市271人(1.2%)減少、高岡市131人(1.6%)減少、射水市114人(2.1%)減少などすべての市町村で減少している。

1学級当たりの児童数は23.3人（前年度23.7人）で、全国の24.0人を下回っている。
 本務教員1人当たりの児童数は14.8人（前年度15.1人）で、全国の15.7人を下回っている。
 （表6、7、統計表34、44）

表7 男女別及び学年別児童数の推移

（単位：人）

年度	計	男子	女子	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年
平成22	59,870	30,613	29,257	9,586	9,680	10,151	10,126	10,210	10,117
23	59,145	30,228	28,917	9,327	9,594	9,704	10,151	10,145	10,224
24	57,959	29,764	28,195	9,034	9,349	9,587	9,692	10,156	10,141
25	56,684	29,119	27,565	8,929	9,030	9,326	9,572	9,685	10,142
26	55,277	28,374	26,903	8,751	8,934	9,016	9,321	9,585	9,670
27	54,195	27,807	26,388	8,611	8,752	8,927	9,011	9,324	9,570

（4）教員数及び職員数

教員数（本務者）は3,653人（男子1,250人、女子2,403人）で、前年度より2人（0.1%）増加している。教員数に占める女子教員の割合は65.8%である。

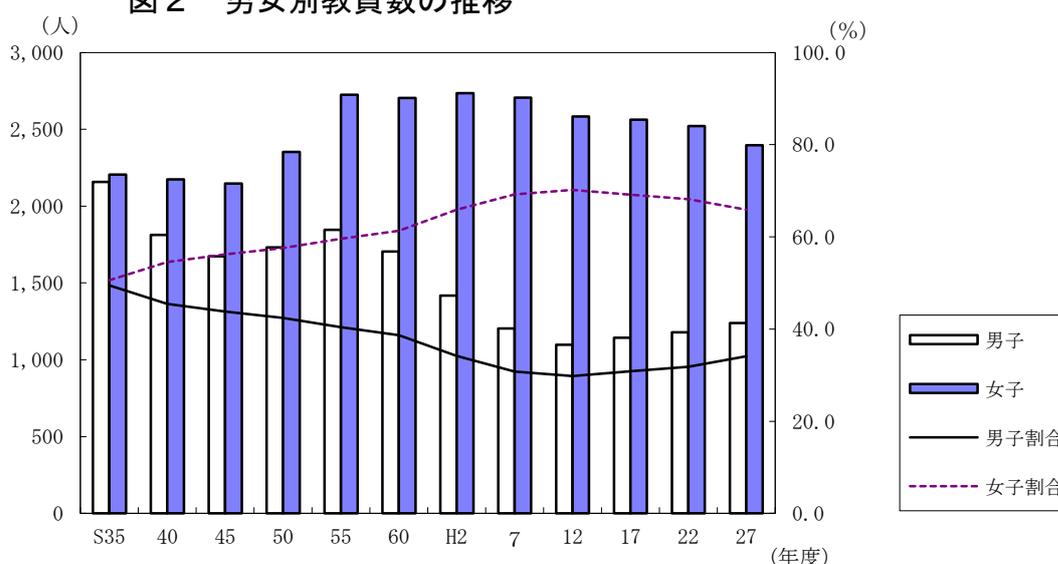
職員数は796人で、前年度より13人減少している。（表6、8、図2、統計表35、36、49）

表8 男女別教員数

（単位：人）

年度	計	男	女
平成22	3,700	1,178	2,522
23	3,717	1,207	2,510
24	3,682	1,208	2,474
25	3,685	1,219	2,466
26	3,651	1,232	2,419
27	3,653	1,250	2,403

図2 男女別教員数の推移



(5) 長期欠席者数

平成 26 年度間の 30 日以上の長期欠席者数は、平成 25 年度間より 34 人（10.0%）多い 374 人で、理由別では「不登校」が 215 人（構成比 57.5%）で最も多く、次いで「その他」が 112 人（同 29.9%）、「病気」が 47 人（同 12.6%）となっている。

全児童数（平成 26 年度児童数 55,277 人）に占める長期欠席者の比率は、全国の 0.88% より 0.20 ポイント低い 0.68% で、低い順に全国第 13 位（前年度第 11 位）であった。

また、全児童数に占める「不登校」の比率は、全国の 0.39% で全国と同率であり、低い順に全国第 26 位（前年度第 24 位）であった。

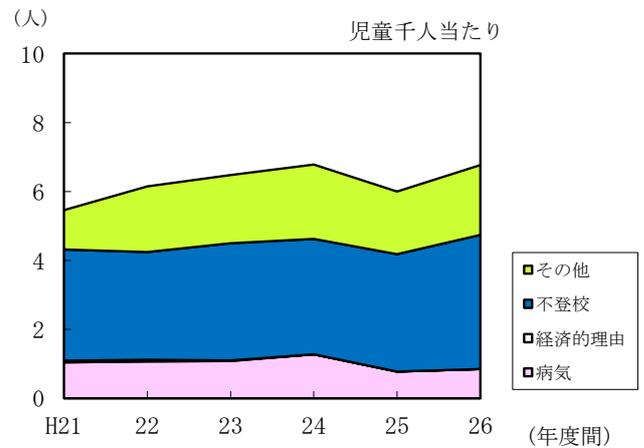
（表 9、10、図 3、4、統計表 38）

表 9 理由別長期欠席者数 (単位：人)

年度間	計	長期欠席 (30日以上) 理由			
		病気	経済的 理由	不登校	その他
平成21	330	63	3	195	69
22	368	64	3	187	114
23	383	64	1	201	117
24	393	74	—	194	125
25	340	44	—	193	103
26	374	47	—	215	112

注) 「その他」には、「欠席理由が2つ以上(「病気」と「不登校」など)あり主たる理由を特定できない者」や「保護者の無理解・無関心から欠席している者」などが含まれている。

図 3 長期欠席理由別推移



$$\text{児童千人当たりの長期欠席者数} = \frac{\text{各年度間の長期欠席者数}}{\text{各年5月1日現在の児童数}} \times 1000$$

表10 全児童数に占める不登校の比率

(単位：%)

年度間	富山県	全 国
平成21	0.32	0.32
22	0.31	0.32
23	0.34	0.33
24	0.33	0.31
25	0.34	0.36
26	0.39	0.39

$$\text{比率} = \frac{\text{各年度間不登校の欠席者数}}{\text{各年5月1日現在の児童数}} \times 100$$

図 4 長期欠席者数の推移 (30日以上) (%)

